

リーダーになる！

実践する上司学。
よきリーダーに、よき上司になるために。



嶋津良智 ■リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第2回 時間の使い方

講演・企業研修で、全国各地を歩き来するライフスタイルで常に時間の使い方気に配っています。皆さんは本当に大切なことに時間を使っていますか？

繁忙期には1カ月に20日以上登壇することもあるこの仕事柄、我が家に帰り家族と共に一息つく時間は、私にとっても、大変貴重な安らぎのひとつです。

しかし、それもつかの間、寝て起きれば、また仕事とのダンスが始まります。こんなワークスタイルのわたしにとって、時間の使い方は本当に大切なスキルです。

人種・宗教・国などに関係なく、この世の中の万人

に与えられているものが、たった二つだけあるといわれています。それは、「24時間11日」という「時間」と「命」です。オバマ大統領だからといって、36時間11日を与えられているわけではありませぬ。それゆえ、今この社会に存在する一番シンプルな成功哲学は、「『時間』と『命』を大切にすること」だともいわれています。

この貴重な「時間」という資産を大切にして生きる上で、最近つくづく感じる

ことがあります。それは、「何かをしているときは、何かをしていないとき」。これは、時間管理の神髄を突いた言葉だと思っています。「寝てるときは、仕事してないとき」、「テレビを見ているときは、本を読んでいるとき」、「友達とお酒を飲んでいるときは、家族と過ごせていないとき」など。人は、こうやって知らないうちにいろいろなことに対して時間を使っています。ただし、よくいわれることが、たくさんさんのどうでもいいことに、限りある大切な時間を使っていることがあまりにも多いという現実です。つまり、何かをしないことを増やさないと、本当に

大切なことをする時間を増やせないということになります。

わたしだけでなく、多くの著名人が話したり、著書でも語っているように「いかにしないことを増やすか」「いかに今していることをやめる勇気を持つか」、それによって本当に大切なことに使う時間を増やせます。これは、仕事で成果を上げ、良き人生を送っている

リーダーになるツール 役立つ書籍や道具などを紹介



『あたりまえだけどなかなかできない 上司のルール』

優秀な部下をより多く育成するのが上司の使命。分かっているけれども、なぜそれが部下に伝わらないのか。部下と良好な関係を保ち、絶えず成長と気づきを与える上司になるためのルールを紹介している。(アスカビジネス/1365円)